

フランシス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる —リース・ミューズ7番地、アトリエからの ドローイング、ドキュメント—

20世紀のイギリスの巨匠フランシス・ベーコン(1909-92)。彼の名を一躍有名にしたのは、1940年代から発表していった、叫び、あるいは歪められた人物像や、画面に漂う不穏な雰囲気強烈な印象を与える一連の絵画でした。そこには、古典名画や報道写真から引用されたモチーフが、大きく変容されて取り込まれ、絵画世界を一層暗示的なものとしていました。

生前のベーコンは、自身の創作プロセスに関する情報を緻密にコントロールし、たとえば、絵画のための準備のドローイングやスケッチはしないと語っていました。

ところが死後、画家が1961年から居を定めていたリース・ミューズ7番地のアトリエに残された膨大な遺留品の調査では、その言葉と相反するような資料が発見され、アトリエでの秘められた画家のもうひとつの顔に関する解明が進められています。

こうしたなか、アトリエの近所に住んでいた縁で、1978年に画家と知り合い、以後様々な身の回りの仕事を頼まれていた隣人バリー・ジュール氏は、1996年になって、画家の死の直前に突然千点を超えるドキュメントを贈られたと明かしました。そこには「Xアルバム」と呼ばれるドローイング、「ワーキング・ドキュメント」と呼ばれる多くの新聞や雑誌の紙片上に直接描きこまれたイメージなどが含まれ、それまで画家自身が創り上げてきたセルフ・イメージを覆すような新たな資料の出現として話題となりました。画家の生前、その存在は確認されていなかったことから、研究者の間では以後さまざまな意見が取り交わされてきました。一方で過去には、アイルランド国立近代美術館(2000年)、ロンドンのバービカン・センター(2001年)、南京芸術学院美術館(2013-14年)、温州の昊美術館(2016年)、ソレントのヴィラ・フィオレンティーノ(2018年)で、バリー・ジュール・コレクションによる展覧会が開催されました。

本展では、コレクションのうちから約130点を、「Xアルバム」「ワーキングドキュメント」、書籍や油彩画小品、ポスター等「そのほかのアトリエ関連資料」に分けてご紹介していきます。

Francis Bacon - The Barry Joule Collection of Artworks from Francis Bacon Studio, 7 Reece Mews London SW7 U.K.

2021年4月20日(火)

— 6月13日(日)



①《フランシス・ベーコンの写真上のドローイング》
1970~80年代頃 モノクロ写真掲載紙へのペイント

©The Barry Joule Collection

◇ コレクションの内容に関して

1. X アルバム

コレクションのなかで、「Xアルバム」と呼ばれる一群のドローイングの呼称は、それらが綴じられていた、19世紀後半頃の古いアルバムに由来します。表紙には、大きく黒い「X」のマークが描かれていました。

もとはアルバム台紙が切り離されたと推定される紙の両面にはドローイングが描かれ、それらのなかには、ベーコンが1950年代に制作した油彩画の連作《ファン・ゴッホの肖像のための習作》を想起させるようなゴッホのイメージや、1950年頃から1971年まで描き続けた教皇像を思わせる叫ぶ教皇のイメージなどがあります。また画家は若い頃から、病理学などの写真に興味を抱いていたことが知られていますが、それらを彷彿とさせる「耳」や「口」といった人体の部分を集めたコラージュもあります。

こうした「Xアルバム」のドローイングが、油彩画の準備段階として描かれたものなのか、それとも完成後に画面を再現したものか、あるいは全く独立の画面として構成されたのかなど、ベーコンの油彩画作品との関係性は必ずしも明らかではありません。1950年代に画家の恋人であったピーター・レイシー(1916-62)が、この「Xアルバム」に由来し、その後、別の個人蔵となっている作品には、自分がスクラッチ(ひっかき傷)をつけたことがある、と証言していたといいます。つまり「Xアルバム」の一部の作品に関しては、画家以外の周囲の人物が関与している可能性があり、ベーコンの制作過程を探るうえで興味深いものとなっています。



② 《Xアルバム7 裏—ファン・ゴッホ・シリーズ》1950年代後半～60年代前半 油彩・コンテ、紙



③ 《Xアルバム5 表—ファン・ゴッホ・シリーズ》1950年代後半～60年代前半 油彩・コンテ・チョーク、紙



④ 《Xアルバム9 裏—叫ぶ教皇》1950年代後半～60年代前半 油彩・コンテ・鉛筆、紙



⑤ 《Xアルバム3 表》1950年代後半～60年代前半 油彩・コンテ・チョーク、紙、フォトモンタージュ

2. ワーキング・ドキュメンツ

ベーコン関連資料として、通称「ワーキング・ドキュメンツ(作業資料)」と呼ばれる資料とは、膨大な数の新聞や雑誌の紙片からなり、そこにはしばしば描き込みや変形が加えられています。

ベーコンの死後の1998年、ロンドンのリース・ミュージズ7番地にあったアトリエは、遺産継承者となったジョン・エドワーズ(1949-2003)によって、アイルランドのダブリン市立ヒュー・レーン美術館に中身ごと寄贈されました。その移設・調査の際に、アトリエの床からはおびただしい数の古い雑誌や新聞の紙片が「発掘」されました。折り曲げや変形が加えられたこれらメディア資料は、油彩画制作の下図的に使用されていたことが明らかになってきています。またそのテーマは、戦争、紛争、人物、医療、スポーツなどで、画家の関心領域を物語ります。

今回のジュール・コレクションの「ワーキング・ドキュメンツ」のテーマもこれと類似しています。しかし変形の痕跡は少なく、逆にヒュー・レーンの資料にはない激しい描き込みが加えられるなど、その性質は異なるものとなっています。



⑥ 《自転車選手の写真上のドローイング》1970～80年代頃 モノクロ写真掲載紙へのグワッシュのペイント、コンテ、ペン



⑦《水泳選手(1928年頃)の写真上のドローイング》1970~80年代頃 モノクロ写真掲載紙へのスクラッチとペイント



⑧《フォルクスワーゲンの車と男の写真上のドローイング》1970~80年代頃 モノクロ写真掲載紙へのスクラッチとペイント



⑨《ジャン・セベルジェ「レジスタンスの同志の再会」(パリ、1944年8月)の写真上のドローイング》1970~80年代頃 モノクロ写真掲載紙へのスクラッチとペイント



⑩《ルドルフ・ヌレエフの写真上のドローイング》1970~80年代頃 モノクロ写真掲載紙へのスクラッチとペイント

3. そのほかのアトリエ関連資料

©The Barry Joule Collection (⑦~⑩画像すべて)

ベーコンは大変な読書家として知られ、彼の死後、多くの蔵書がそのアトリエに残されていました。バリー・ジュール・コレクションの中には、生前、画家がアメリカの写真家リチャード・アヴェドン(1923-2004)やフランスの詩人で美術評論家のミシェル・レリス(1901-90)から献呈された書籍も含まれ、その交友関係を物語るものとなっています。こうした書籍にも描き込みが加えられています。また、1930年代頃のものと思われる油彩画小品や、参考作品として画家がサインを書き込んでいる展覧会ポスターも展示します。

テート・ギャラリーのアーカイヴへの寄贈

2004年1月、テート・ギャラリーは、「アトリエからのフランシス・ベーコン関連資料」として、「Xアルバム」や「ワーキング・ドキュメンツ」など1200点あまりのバリー・ジュール・コレクションのアーカイヴへの寄贈受入れを発表しました。

資料が今後、創作プロセスの解明の研究に寄与することを期待するとし、カタログをオンラインでも公開しています。

Tate Archive and Public Records Catalogue

<http://archive.tate.org.uk/DServe/dserve.exe?dsqServer=tb-calm&dsqApp=Archive&dsqDb=Catalog&dsqCmd=Search.tcl>

今回の展覧会は、所蔵者の手に残るコレクション約130点から構成されています。

◇関連イベント

●記念講演会「画家のアトリエー創造の現場」(仮題)

講師:水沢勉氏(神奈川県立近代美術館長)

日時:6月6日(日)午後2時~(約1時間)地下2階ホール(予定)

*無料(要入館料) *定員40名(申し込み先着順)*事前申し込みが必要です。「ベーコン展講演会」係まで

●学芸員による特別講座

「リース・ミューズ7番地のアトリエの移転と発見」

日時:5月15日(土)午後2時~(約1時間)地下2階ホール(予定)

*無料(要入館料) *定員40名(申し込み先着順)

*事前申し込みが必要です。「ベーコン展講座」係まで

●ギャラリートーク

4月23日(金)、5月8日(土)、16日(日)

各日午後2時~ 約40分 *無料(要入館料)

*事前予約の必要はありません

講演会&講座 申込方法

*往復はがき、またはメール
(event@shoto-museum.jp)にて

〒・住所・氏名・年齢・日中連絡の
つく電話番号・希望イベント名をご記
入ください。各イベントごと、1通に
つき1名まで申込可能。

*迷惑メール等の受信制限をされてい
る方は、事前に@shoto-museum.jpド
メインより受信できるようにしてくだ
さい。

◆開催概要

展覧会名	フランス・ベーコン バリー・ジュール・コレクションによる ーリース・ミューズ7番地、アトリエからのドローイング、ドキュメントー
会期	2021年4月20日(火)ー 6月13日(日)
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
入館料	一般1,000円(800円)大学生800円(640円)、高校生・60歳以上500円(400円)、 小中学生100円(80円) *()内は渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝日は小中学生無料、*毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料
休館日	月曜日(ただし、5月3日は開館)、5月6日(木)
主催	渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、DNP大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
特別協力	バリー・ジュール・コレクション 企画協力 西村画廊
会場	渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話: 03-3465-9421 https://shoto-museum.jp

土・日曜日、祝日・最終週は日時指定制

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、土・日曜日、祝日および会期末の最終週には「日時指定制」を予定しております。詳細は決まりしだい当館ホームページでお知らせいたします。お出掛けの際は、最新の情報をご確認下さい。

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
 - JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分
- ※駐車場はございません。

◆次回展のご案内◆

アイヌの装いとハレの日の着物

ー国立アイヌ民族博物館の開館によせてー

2021年 6月26日(土)～8月9日(月・休)



報道関係のお問い合わせ

広報担当: 西・木原(pr-sma@shoto-museum.jp)
電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

展覧会担当: 平泉(hiraizumi@shoto-museum.jp)
西 (nishi@shoto-museum.jp)

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となることもございます。
最新情報は当館HPまたはSNS等でご確認いただきますようお願いいたします。
※本展会期中、毎週金曜日の夜間開館および館内建築ツアーは中止いたします。